

ユニセフ募金にご協力ください

～世界の子どもたちのために～

We Support



大阪よどがわ市民生協は、世界中の子どもたちが十分なケアを受け、よりよい人生のスタートがきれるよう、ユニセフ募金に通年で取り組んでいます。

この時期、世界の子どもたちのために「ユニセフ募金」を呼びかけています。2021年度のユニセフ募金総額は67万4000円でした。ご協力ありがとうございました。



ユニセフ（国連児童基金）とは

ユニセフは、世界の子どもたちの命と権利を守る主要な機関として、約190の国と地域で活動を行っています。

今回お預かりする募金はユニセフの定めた優先順位に応じて、世界各地の

ユニセフの活動に活用される「一般募金」とミャンマーの栄養支援プログラムに活用される「指定募金」となります。

2021年度全国の生協による募金総額は4億5811万8436円となりました。

ユニセフ募金の流れ

組合員のみなさん

ご加入の生協

日本ユニセフ協会

ユニセフ本部(ニューヨーク)

ユニセフ現地事務所

世界の子どもたち

生後6カ月の子どもを抱える母親（ザンビア）

募金でできる支援例



2円

子どもたちの免疫力を高め、感染症にかかりにくくする

ビタミンA カプセル1錠



42円

重度の栄養不良からの回復に役立つ

栄養治療食 1袋



195円

10リットルの水を貯水・運搬できる折り畳み式の

貯水容器1つ



©UNICEF 貯水容器

※2022年8月時点の価格です
※輸送や配布のための費用は含まれていません

募金方法

(受付期間11月2回～12月1回)

11月2回～12月1回のOCR注文書の**募金カンパ欄**で受付いたします。(eフレンズでもお申込みいただけます。)

※集められた募金はミャンマー指定募金として活用します。
※お預かりした募金は税額控除の対象とはなりません。予めご了承ください。



UNICEF Myanmar/2019/Minzayar ©

募金カンパ欄	1416	千	百	雑貨過去利用
		㊦	㊦	
	1417	千	百	
	ユニセフ募金	㊦	㊦	円

募金カンパ欄1417に
□数をご記入ください。

「1」と記入すると
1□100円の募金となります
(100円単位)



大阪よどがわ市民生活協同組合

〒564-0015 大阪府吹田市幸町4-1 TEL: 06-6319-5619(月～金 9:00～17:00)

一般募金による支援活動例

1990年当時、年間1,250万人もの子どもたちが5歳の誕生日を迎えられずに命を落としていました。2019年、その数は**520万人**となり、子どもたちを取り巻く環境は確実に改善されてきています。

保健・栄養

すべての子どもが乳幼児期に十分なケアを受け、守られ、より良い人生のスタートを切ることができるよう、予防接種の普及、母乳育児の推進、栄養改善など総合的な支援を行っています。COVID-19の影響で、今後さらに**900万人**の5歳未満児が、消耗症に陥るおそれがあります。



UNICEF/UN0691305/Sewunet

2021年の成果例

発育阻害やその他の栄養不良を防ぐためのサービスを約**3億3,600万人**の子どもたちに提供しました。ユニセフは、**発育阻害やその他の栄養不良を防ぐためのサービスを約3億3,600万人の子どもたちに提供しました(2020年比で38%増)**。

教育

男の子も女の子も平等に学ぶ機会を得、質の高い教育を受けられるよう、学習資材の提供、学校施設の設備、教育へのトレーニングなどを支援しています。COVID-19の流行で、最大で**16億人**の子どもや若者が学校閉鎖の影響を受けました。



UNICEF/UN069464/Sabit

2021年の成果例

学校に通っていない子ども**4,860万人**以上が就学前教育、初等、中等教育プログラムに参加しました。

水と衛生

より多くの子どもたちに清潔な水を届けられるよう井戸などの給水設備を作ったり、衛生的な生活が送れるようトイレを設置したり、石けんを使った正しい手洗いなどの衛生習慣を広めるといった活動をすすめています。世界では約**23億人**が、石けんと水を備えた基本的な手洗い設備のない家で暮らしています。



© UNICEF/UN1206458/Wilander

2021年の成果例

3,330万人に安全な飲料水を、**840万人**に清潔なトイレを提供しました。

子どもの保護

特に厳しい状況にある子どもの保護と、すべての子どもが家族や社会で、また法的にも守られる環境づくりを支援しています。COVID-19の世界的流行によって、メンタルヘルス、家庭内暴力、家族のケアを受けられない子どもといった子どもの保護に関する問題が明らかになりました。



© UNICEF/UN0694195/Seck

2021年の成果例

111カ国で**840万人**の子どもや若者にメンタルヘルスや心理ケアサポートを提供しました。

ミャンマーの女性と子どものストーリー

政治危機後も栄養改善活動を続ける保健ボランティアたち！



東部シャン州では、栄養不良が社会問題となっており、国民に栄養改善の知識や実践が不足していること、新型コロナウイルスや現在の政治危機の影響による食料価格の高騰、質の高い医療サービスを受けられないことが、事態をより悪くしています。

ユニセフ・ミャンマー事務所では、2021年2月の政治危機以降も、保健ボランティアの代表に対して乳幼児の栄養改善についての実践的な研修を提供しています。研修を受けた保健ボランティアたちが妊娠中・育児中の女性に対してカウンセリングを行っています。



©UNICEF Myanmar/2022

東部シャン州チャイントン郡区での栄養啓発セッション。



©UNICEF Myanmar

栄養カウンセリングを受けたマー・シュウェ・ラーさん

マー・シュウェ・ラーさんが住んでいる東部シャン州チャイントン郡区の村では、地域に根付く伝統的な考えとして、産前産後の女性は鶏肉以外の食べ物(野菜や果物等)を食べてはいけないという習わしがありました。また、生後の早期母乳育児の開始も行われていませんでした。

しかし、ユニセフの研修を受けた保健ボランティアが行うカウンセリングに参加して、マー・シュウェ・ラーさんは産前産後の母親はさまざまな食品を食べる必要があることや完全母乳育児の大切さ、生後6か月以降の離乳食や微量栄養素パウダーなどの効果を学びました。今では村の周囲の友人たちにも母親や乳幼児の栄養改善の利点について伝え、提唱するようになりました。

※2021年2月以降の政治的混乱後もユニセフは活動を継続していますが、事実上軍によって指揮されている現時点の当局とは関わりを持たず、NGOや地域の保健団体などのパートナーシップを通じて支援活動を行っています。